

令和8年度研究推進計画

学校名 東広島市立龍王小学校

校長名 小迫 賢志

1 研究主題等について

(1) 研究主題

自ら学びを調整し、学び続ける学習者の育成
～リフレクションの工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

現行の小学校学習指導要領では、予測困難な社会を生き抜くために必要な「生きる力」を育むべく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。これからの社会においては「何を知っているか」という知識の習得に留まらず、未知の状況において「どのように学び、どう解決していくか」を自ら考え、自律的に判断して行動できる児童の姿が求められている。特に、文部科学省が推進する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実においては、児童が自らの学習状況を客観的に捉え、納得感をもって次の学習へと向かう自律的な学習者の育成が不可欠である。

東広島市第六次学校教育レベルアッププランの中では、「挑戦・協働・創造」の育成が目指されている。主体的に判断し行動する自律性に加え、夢や志をもち、自分の個性や能力を生かしながら新たな課題や可能性に向けて果敢に挑戦すること、社会の創り手として多様な人々と協働すること、自ら問いや計画を立て、方法を模索しながら解決したり、新たな問題の発見・解決につなげたりしながら主体的に新たな価値を創造することが求められており、自己調整力を育む教育はこれから非常に重要となる。

本校は、学校教育目標を「夢と志をもち、未来を切り拓く子どもの育成」とし、自らの目標をもち、主体的に考え行動できる児童の育成を目指している。昨年度より自己調整学習を視点とした研究に取り組み、授業において「見通す・実行する・振り返る」の学習サイクルを位置付けてきた。その成果として、児童が見通しをもち、対話を通して学びを深める姿が見られた。一方で、児童の実態には差があり、個に応じた支援の在り方とともに、学習サイクルの中の「振り返り」が学習方法の見通しや学習過程における調整、さらに次の学びへとつなぐポイントとなるよう、その質を高めていくことが課題として明らかになった。

そこで本年度は、この振り返りの質を高める視点として、リフレクションに着目する。リフレクションとは、学習者が自身の思考プロセスや対象へのアプローチを対象化し、目的達成に向けて方略を柔軟に調整・改善しながら、得た知識を次の学習へとつなげていく連続的な思考の働きである。一方で、「振り返り」は児童が書く・話すなどして学びを見つめ直す活動であり、リフレクションを可視化し、意味づける場である。リフレクションは授業の「見通し・実行・振り返り」の各場面で継続的に働くものであり、リフレクションの在り方を工夫することで、その質を高めることができる。以上を踏まえ、本年度は児童が自らの学びを見つめ、学習方法や自己の課題を捉えながら授業の中で学びを調整し、次の学びへとつなげることができるようリフレクションの質の向上に焦点を当てて研究を進める。

(3) 研究仮説

学習過程においてリフレクションを意図的・構造的に位置づけ、方略選択・調整・評価の視点に基づいた振り返りの質を高めることで、児童は自らの学び方や課題を捉えて学びを調整し、主体的に学び続けることができるであろう。

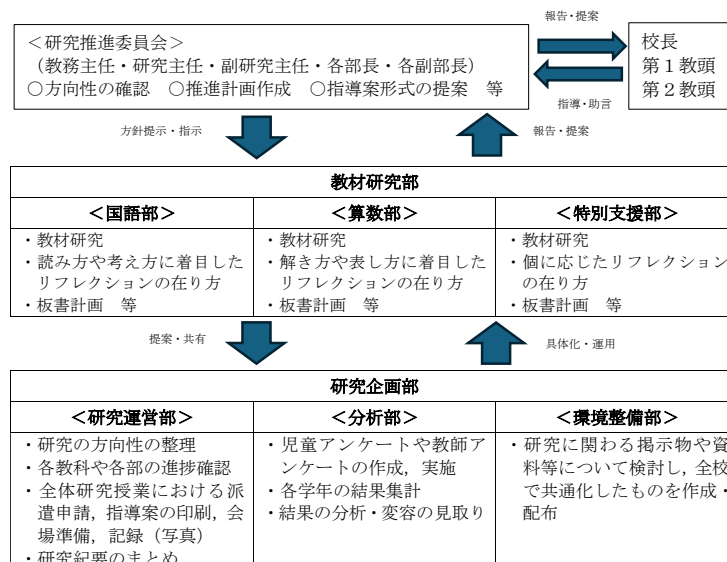
(4) 研究内容

- 学習過程におけるリフレクションの位置づけと方法の工夫
- 授業実践を通したリフレクションの機能の検証
- リフレクションを支える学習環境の工夫

2 検証計画

評価項目	方法	実施時期	検証の指標	達成目標
適切なタイミング・方法でリフレクションが行われているか	○児童アンケート	5月・9月・12月	児童の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
	○児童の振り返り	研究授業後	視点に基づいた記述の割合	80%以上
	○教師アンケート	5月・9月・12月	教師の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
振り返りが感想にとどまらず、学びの調整や次の学習への意欲につながっているか	○児童アンケート	5月・9月・12月	児童の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
	○児童の振り返り	研究授業後	視点に基づいた記述の割合	80%以上
	○教師アンケート	5月・9月・12月	教師の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
安心して考えを表現し、対話できる学習環境が整っているか	○児童アンケート	5月・9月・12月	児童の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
	○教師アンケート	5月・9月・12月	教師の肯定的評価	肯定的評価 80%以上
	○授業アンケート	研究授業時	教師の肯定的評価	肯定的評価 80%以上

3 研究組織図



4 今年度の研修の在り方

全体研修	ブロック研修	ICT研修	総合的な学習の時間研修
<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めや長期休み、年度末等を実施。 ・全体研究授業を年7回実施予定。 ・県外出張や他校の研究會に参加した際に、全体へ還元する。(参加から二週間以内。暮會を活用することも可能。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で実施。 ・全体研究授業者以外の担任は、ブロック研で研究授業を行う。 ・ブロック研修後、各学年や參觀者でリフレクションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月に一回実施。 ・各学年のICT担当が進める。 ・授業で使えるICTの技術について共有・開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・偶数月に一回実施。 ・各学年の総合的な学習の時間担当が進める。 ・総合的な学習の時間や龍王サミットに向けて計画や協議を行う。

5 校内研修計画 全体研究授業については今後調整

(奇数月/総合的な学習の時間研修 偶数月/ICT研修 可能な限り実施)

月	週	日	曜	研修内容	学校行事予定
4	2	9	木		
	3	16	木	昨年度までの研究・今年度の研究や組織について	
	4	23	木	教科部会(役割分担・今年度の授業研について・日程調整)	
	5	30	木	グループ研修(役割分担)	
5	2	7	木	運動会前児童理解研修	
	3	14	木	指導案作成について・学年部会	16 運動会
	4	21	木	総合的な学習の時間研修	
	5	28	木		
6	1	4	木		
	2	11	木	心肺蘇生訓練(15:15~)	
	3	18	木	6年算数全体研究授業(未定)	
	4	25	木	※研究主任研修のため不在	
7	1	2	木	※6年部不在	2,3 修学旅行
	2	9	木	5年国語全体研究授業(未定)	
	3	16	木	個人懇談のため研修なし	
	4	23	木		
	5	30	木	全教職員研修(オンライン)	
8	2	6	木		
	3	13	木	夏の研修については別途提案	
	4	20	木		
	5	27	木		
9	1	3	木		
	2	10	木	※5年部不在	9,10 野外活動
	3	17	木	2年算数全体研究授業(未定)	
	4	24	木		

9	5	30	水	1年国語全体研究授業（未定）	
10	2	8	木	個人懇談のため研修なし	
	3	15	木		15 後期始業式
	4	22	木	4年算数全体研究授業（未定）	
	5	29	木		
11	2	5	木		7 龍王フェス
	3	12	木		
	4	19	木	寺家元気・絆フェスティバルのため研修なし	
	5	24	火	3年国語全体研究授業（未定）	
12	1	3	木		
	2	10	木	研究紀要作成について	
	3	17	木	特別支援学級全体研究授業（未定）	
	4	24	木	研究紀要作成について	24 冬季休業開始
1	2	7	木	研究紀要作成・学年や部で確認	7 後期後半開始
	3	14	木		
	4	21	木		
	5	28	木	今年度のまとめ	
2	1	4	木	今年度の振り返り	
	3	18	木	来年度の研究について	
	4	25	木	参観日のため研修なし	25 参観日
3	1	4	木	来年度の研究について	
	2	11	木		
	3	18	木		